

ま^ちの話題



対戦したオーストラリアチームと撮影
(池内さんは後列の左から2人目)

ソフトボール国際大会で優勝

いけうちあやの
池内彩乃さん (12歳)

日本が連覇

平成27年3月号広報で、ソフトボールの国際親善大会へ出場する池内彩乃さんが大会前に町長のもとを訪れた、というニュースを掲載しましたが、皆さん覚えていますか。

3月に行われた、その国際親善大会で池内さん属する日本選抜チームが優勝したという知らせが入ってきたため、池内さんに話を聞いてきました。

東郷町から初選抜

現在、東郷中学校1年生の池内さんは、高嶺小学校の6年生だった今年の3月21日、22日に、オーストラリアのシドニーで開かれたソフトボールの国際親善大会に出場しました。

大会では、日本、オーストラリア、ニュージーランドの3カ国が、男女別に競いました。

この大会に参加する日本選抜チームのメンバーは、選考会を兼ねた大会でベスト8入りしたチームの6年生から選ばれます。池内さんも、所属していた「東郷ジュニアガールズ」がベスト8に入ったため、東郷町から初めてメンバーに選ばれました。

愛知、大阪、兵庫、広島などから集められた23人のメンバーは、2つのチームに分けられます。池内さんも片方のチームに入り、試合ではピッチャー、ファースト、セカンドを務めました。

国際親善大会の女子部門には、日本2チーム、オーストラリア4チーム、ニュージーランド1チームの計7チームが出場し、総当たり戦で順位を競いました。

今回が初めての海外、そして初めての国際試合だった池内さん。身長145センチと小柄なため、相手選手の中には頭1つ分大きな選手もいました。

それでも「向こうの選手は、最初見たときは強そうだな、たくさん打ちそうだな」と思いましたが、実際に戦ってみたら意外と大丈夫でした」と話します。

池内さんの父親で、東郷ジュニアガールズの監督でもある池内隆滋(たかまさ)さんは「フォームを重視する日本と違い、向こうには我流の打ち方、投げ方をする選手がたくさんいます。また、ほとんど作戦を立てないので、日本は体格的に不利でも、技術と作戦で勝てるんです」と教えてくれました。

今回の大会では、彩乃さんのチームが1位、もう片方の日本チームが2位と日本が上位を独占しましたが、女子部門では、これまでも日本が連覇を続けているのだそうです。

とはいえ、ピンチがなかったわけではありません。「負けてもおかしくなかった」というオーストラリアチームとの対戦では、95キロの球を投げるピッチャーに苦しめられました。



なかなか球が打てず、相手のリードで試合が進む中、彩乃さんが渾身(こんしん)のヒットを放ちます。これが試合の流れを変えました。チームは持ち直し、2対1で勝利を収めました。

「監督がチームメイトに、このときの私のヒットを手本にするように言ってくれたのがうれしかったです」

彩乃さんの打率は4割4分4厘でチーム2位。優勝に大きく貢献しました。

夢は全国大会出場

彩乃さんは、ソフトボール指導者として有名な河野愛(かわのあい)さんが監督を務める「日進ソフトボールアカデミー」で、現在もソフトボールを続けています。「アカデミーは、今年の4月に立ち上がったばかりなので、まだメンバーが8人しかいませんが、もっとメンバーを増やして、全国大会に出るのが夢です」と話してくれました。

平成32年(2020年)の東京五輪で復帰が有力視されているソフトボール。これからますます盛り上がりそうなソフトボール、そして彩乃さんから目が離せません。